

平成 28 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月鳥類調査 速報

●実施状況

平成 28 年 5 月 10 日に鳥類調査を実施した。この時期は春の渡り期にあたり、夏鳥のコアジサシや旅鳥のシギ・チドリ類が確認された。天気は曇りで、気温 21.8～22.6℃、北西～南東寄りの風が 3.1～3.5.m/sec であった。調査当日は中潮で、干潮が 13 時 22 分(9cm)、満潮は 6 時 21 分(187cm)であった(東京都港湾局のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

| | 葛西人工渚 | お台場海浜公園 | 森ヶ崎の鼻 |
|-----------|---|--------------------------------------|-----------------------------|
| 作業時刻 | 15:00-16:10 | 11:05-12:20 | 12:43-13:41 |
| 天候 | 曇り | 曇り | 曇り |
| 気温(℃) | 22.2 | 21.8 | 22.6 |
| 風向 | 北西 | 東 | 南東 |
| 風速(m/sec) | 3.1 | 3.3 | 3.5 |
| 備考 | 上げ潮時に調査を行った。干潟が広く干出していた。ヨシ原でオオヨシキリがさえぎっていた。 | 潮位が低く、第六台場や鳥の島、海浜公園の汀線に干潟や岩礁が干出していた。 | 当日、干潟面積が最も大きくなる最干潮時に調査を行った。 |

●主な出現種等

| | 葛西人工渚 | お台場海浜公園 | 森ヶ崎の鼻 |
|--------------------|---|---|--|
| 数が多かった 鳥類上位 2 種 | ユリカモメ(727 羽) ハマシギ(359 羽) | カワウ(516 羽) キョウジョシギ(53 羽) | コアジサシ(152 羽) キョウジョシギ(73 羽) |
| その他の 鳥類 | マガモ、カルガモ、カンムリカイツブリ、カワウ、サギ類(アオサギ等)、シギ・チドリ類(キョウジョシギ、ハマシギ等)、ウミネコ、セグロカモメ、大型カモメ、コアジサシ、アジサシ、ハクセキレイ。 | カルガモ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、ユリカモメ、コアジサシ、アジサシ、ハクセキレイ。 | カルガモ、カワウ、アオサギ、コサギ、コチドリ、シロチドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、ユリカモメ、ウミネコ、ミサゴ、カワセミ。 |
| 備考 | ・汀線際や干潟では、サギ類、シギ・チドリ類が採食。カワウ、カモメ類、アジサシが休息。 ・水上ではコアジサシが採食、カンムリカイツブリが休息。 ・重要種として、18 種を確認(カンムリカイツブリ、ダイサギ、ムナグロ、ミヤコドリ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、オバシギ、ハマシギ、コアジサシ等) | ・第六台場ではカワウやサギ類が営巣し、大きく育った雛を確認。 ・海浜公園側ではユリカモメやコアジサシが休息や採食。 ・護岸や干潟ではシギ・チドリ類が採食。 ・重要種として、7 種を確認(ダイサギ、コサギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、コアジサシ) | ・干潟や護岸ではシギ・チドリ類が採食。 ・干潟ではカワウ、カモメ類、コアジサシが休息。コアジサシの求愛行動を確認。 ・水上ではコアジサシが採食。 ・杭上でミサゴが休息。 ・重要種として、10 種を確認(コサギ、コチドリ、シロチドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、コアジサシ、ミサゴ、カワセミ)。 |

●出現種と個体数

| No. | 目 | 科 | 種名 | 5月 | | | 重要種 選定基準 | | | |
|------------|--------|-------|--------------------|-------|---------|-------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| | | | | 葛西人工渚 | お台場海浜公園 | 森ヶ崎の鼻 | 文化財 ^{*1} 保護法 | 種の ^{*2} 保存法 | 環境省 ^{*3} RL | 東京都 ^{*4} RL |
| 1 | カモ | カモ | マガモ | 3 | | | | | | |
| 2 | | | カルガモ | 10 | 6 | 16 | | | | |
| 3 | カイツブリ | カイツブリ | カンムリカイツブリ | 8 | | | | | | 留意種 |
| 4 | カツオドリ | ウ | カワウ | 93 | 516 | 10 | | | | |
| 5 | ペリカン | サギ | ゴイサギ | | 2 | | | | | |
| 6 | | | アオサギ | 5 | 25 | 3 | | | | |
| 7 | | | ダイサギ | 4 | 5 | | | | | VU |
| 8 | | | コサギ | 13 | 20 | 3 | | | | VU |
| 9 | チドリ | チドリ | ムナグロ | 4 | | | | | | VU |
| 10 | | | ダイゼン | 2 | | | | | | VU |
| 11 | | | コチドリ | | | 2 | | | | VU |
| 12 | | | シロチドリ | | | 3 | | | VU | VU |
| 13 | | ミヤコドリ | ミヤコドリ | 43 | | | | | | EN |
| 14 | | シギ | チュウシャクシギ | 2 | 3 | 2 | | | | VU |
| 15 | | | ダイシャクシギ | 2 | | | | | | CR |
| 16 | | | ホウロクシギ | 1 | | | | | VU | CR |
| 17 | | | アオアシシギ | 7 | | | | | | NT |
| 18 | | | キアシシギ | 7 | 15 | 5 | | | | VU |
| 19 | | | イソシギ | 2 | 1 | 3 | | | | VU |
| 20 | | | キョウジョシギ | 22 | 53 | 73 | | | | VU |
| 21 | | | オバシギ | 6 | | | | | | EN |
| 22 | | | ミュビシギ | 7 | | | | | | EN |
| 23 | | | トウネン | 15 | | | | | | NT |
| 24 | | | ハマシギ | 359 | | | | | NT | NT |
| 25 | | カモメ | ユリカモメ | 727 | 32 | 8 | | | | |
| 26 | | | ウミネコ | 6 | | 2 | | | | |
| 27 | | | セグロカモメ | 6 | | | | | | |
| | | | 大型カモメ ^A | 3 | | | | | | |
| 28 | | | コアジサシ | 15 | 14 | 152 | | 国際 | VU | EN |
| 29 | | | アジサシ | 81 | 1 | | | | | |
| 30 | タカ | ミサゴ | ミサゴ | | | 1 | | | NT | EN |
| 31 | ブッポウソウ | カワセミ | カワセミ | | | 1 | | | | VU |
| 32 | スズメ | セキレイ | ハクセキレイ | 1 | 2 | | | | | |
| 計 8目11科32種 | | | | 27種 | 14種 | 15種 | 0種 | 1種 | 5種 | 22種 |

※種のカテゴリ・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012)に従った。

A: 大型カモメに分類されるセグロカモメが確認されているので「大型カモメ」は確認種数には数えない。

*1文化財保護法:

*2種の保存法: 国際: 国際希少野生動植物

*3環境省レッドリスト: VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧

参照: http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html

環境省自然環境局野生生物課. 2012年. 環境省第4次レッドリスト.

*4東京都レッドリスト2010: CR: 絶滅危惧ⅠA類、EN: 絶滅危惧ⅠB類、VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、留: 留意種

東京都環境局自然環境部. 2010年. 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～20

<葛西人工渚>

○調査地点の状況

干潟が広く干出していた。



西側調査地点から南西方向を見る



○出現種 (ホウロクシギ)

干潟で採食していた。環境省レッドリスト(2012)では絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。春と秋の渡り期に見られる旅鳥。カニ等の甲殻類やゴカイ類などを食べる。



ホウロクシギ

○出現種 (ミヤコドリ)

干潟の汀線付近で採食していた。東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。東京湾、伊勢湾などでは越冬個体数が増加傾向にある。



○出現種 (ミュビシギ)

ハマシギの群れと一緒に干潟で採食していた。東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。秋から春まで見られる冬鳥。砂浜や砂質の干潟を好む。

○出現種 (ハマシギ)

干潟でミュビシギ、トウネンなどと共に採食していた。環境省レッドリスト(2012)、東京都レッドリスト(2010)では準絶滅危惧(NT)に指定されている。夏羽では腹部が黒い。



○出現種 (ユリカモメ)

干潟で休息していた。葛西人工渚では個体数が最も多かった。冬羽では頭部は白いが、夏羽では頭部が黒くなる。東京都民の鳥。

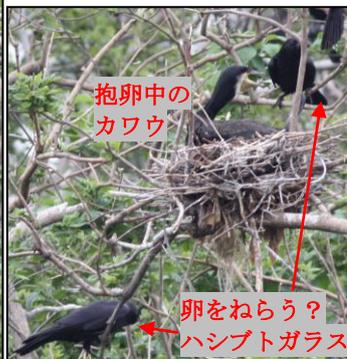
○出現種 (アジサシ)

干潟で群れで休息する様子が見られた。春と秋の渡り期に見られる。

<お台場海浜公園>

○調査地の状況

汀線に干潟や岩礁が干出していた。



○出現種 (カワウ)

第六台場と鳥の島の樹上で営巣していた。親鳥と同じくらい大きさに育ったヒナも見られたが、まだ抱卵中の個体（尾を立てて巣に座っているのが抱卵姿勢）もいた。

○出現種 (アオサギ、ゴイサギ)

第六台場ではゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギも見られ、アオサギは他のサギよりも早く繁殖するためヒナが確認できた。



○出現種 (キョウジョシギ)

干出した護岸などで、キアシシギ、イソシギ、チュウシャクシギなどと共に採食していた。東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○出現種 (コアジサシ、アジサシ)

海浜公園内の構造物上で休息したり、空中からダイビングして魚をとっていた。コアジサシは種の保存法では国際希少野生動植物、環境省レッドリスト(2012)では絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。

＜森ヶ崎の鼻＞

○調査地点の状況

干潟が広く干出していた。



○出現種（コアジサシ）

干潟ではオスがメスに魚をプレゼントする求愛給餌や群れで休息していた。周辺の浅瀬では採食していた。森ヶ崎水再生センター屋上のコアジサシ人工営巣地では、例年よりも早く産卵が確認され、5/7 時点ですでに成鳥約 700 羽、推定営巣数 326 巣が NPO 法人リトルターン・プロジェクトによって確認されている (<http://d.hatena.ne.jp/littletern/20160507/1462638761>)。

○出現種（シロチドリ）

干潟で採食していた。環境省レッドリスト(2012)、東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。近年減少傾向にあるが、森ヶ崎水再生センター屋上では毎年繁殖している。



○出現種（チュウシャクシギ）

干潟周辺の護岸で採食していた。東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。春の渡り期に多く、秋の渡り期には少ない。

<その他>

○ウミネコの繁殖

平成 27 年度 6 月の調査で運河の構造物上でウミネコのヒナが確認され、繁殖が確認された。今季も繁殖している可能性が考えられたため、構造物上を確認したところ、ウミネコの巣を発見し、繁殖していることを確認した。確認した巣は 2 巣だったが、複数の構造物上にウミネコが数十羽いたので、巣の数はもっと多いと考えられる。ウミネコの抱卵日数は 25～29 日である。

